

平成19年度廃棄物学会研究発表会

リサイクルシステム・技術研究部会小集会

国際循環港構築に向けての 現状と課題

平成19年11月21日

ひびきエコソリューションズ

株式会社 九州テクノリサーチ

エコタウン事務所

佐藤 明史

目次

1. 国際循環港とは
2. 具体的な機能
3. 構築に向けた動き
4. 今後の課題

1. 国際循環港とは

- 国際資源循環（輸出入）の拠点となる
- 安全・安心（汚染性の回避）を担保する
- 利便性を向上させる
- 地域とのWin-Win



2. 具体的な機能

- 港湾
- 前処理
- 保管・検査
- 手続き
- リサイクル機能

3. 構築に向けた動き

(1) 北九州市

循環資源の輸出入に積極的に係わっていききたい

2006年「国際資源循環拠点を目指したい」、との要望を国の関係機関に行い、

「北九州市の国際資源循環拠点のイメージ」を発表

イメージの中では、適正で効率的な国際資源循環の実現に向けて、

- 国際間のトレーサビリティの確保
 - 拠点形成による安全性と効率性の向上
- を掲げている。

響灘大水深港湾を軸として、

- 破砕・分別・洗浄・圧縮等の前処理リサイクル機能
- 循環資源・廃棄物の検査機能
- バーゼル法の現地手続き機能
- 中国側検査機関
- 認証機関（トレーサビリティ情報管理センター）

などの機能を持つことを目指している。

また北九州エコタウンのもつ

- リサイクルによる再生資源
- 無害化・適正処理
- 希少金属回収 などの機能との連携も述べている。



(2) その他の地域

■ 精錬所の存在

- ・ 精錬所の精鉱（一次原料）はほとんど輸入
- ・ 循環（地上）資源の積極活用への動き

■ 港の独自性の発揮

- 国際資源循環拠点に想定される機能のうち、特に前処理リサイクル機能については、既存のエコタウンとの連携が考えられる。
- 輸出に関しては、必要なものだけを海外へ輸出して、その他は国内でリサイクルすることとし、
- 輸入に関しても、エコタウンで濃縮などを行って、レアメタルなど、最終的に必要なものだけを精錬所に送るなどの、
- エコタウンとの連携が可能ではないかと考えられる。

■従来は、国際資源循環というと、国内の循環資源が海外により流出し、国内リサイクル産業がダメージを受けるとの考え方もあった。

■今後は、北九州に限らず、各エコタウンにおいて、国際資源循環とエコタウンの最適なパートナーシップを、いかに構築するかが重要な課題になると考えられる。

4. 今後の課題

- 国際資源循環のルールづくり
- 街道から宿場へ
- 国内リサイクル産業との共存
- エコタウンとの連携
- エコタウンのネットワーク化